学校番号	416

令和３年度　国語科

教科	国語科	科目	国語総合	単位数	５単位	年次	１年次
使用教科書	高等学校　改訂版　国語総合（第一学習社）						
副教材等	常用漢字クリア五訂版（尚文出版） ＬＴ現代文基本(浜島書店) 古典文法クリアノート（尚文出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・現代文では文章の「読み方」を学びましょう。文章構造を意識し、「対比構造」、「因果関係」、「論理関係」等の文章構造を意識して読み進めましょう。今まで何となく読んできた文章が文章構造を理解すると、すっきり整理して読めます。高校生になって「文章を読む力がついた」と実感することを目指して下さい。また常用漢字を反復練習することで基礎学力を充実させましょう。
・小説では内容理解だけでなく表現技法や「自分がもしこの話の登場人物だったらどうするか。どう思うか。」を考えます。物語の登場人物の人生をシミュレーションすることで、今後の自分たちの人生の生き方のヒントを得て下さい。
・古典の時間では、有名な古文と漢文の作品に親しむとともに、心情を正しく理解することを目標とします。そのために基本的な文法、単語をしっかりと身につけてください。
・提出物の期限は必ず守りましょう。また、授業中の確認テストに備えて復習しておきましょう。
・クラスメートと互いに教えあい学びあうことも大切にしましょう。

2　学習の到達目標

・言語感覚を磨き、論理的な思考力、豊かな想像力を活用することができる。
・目的や場に応じて的確に文章の内容や構造を理解し、登場人物の心情を理解することができる。
・伝統的な言語文化に対する関心を持ち、基礎的な知識と共に古典の面白さを理解する。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:話す・聞く能力	c:書く能力	d:読む能力	e:知識・理解
観点の趣旨	国語や言語文化に関する関心を深め、自らの言語能力の向上を図り、進んで表現したり理解したりすると共に、伝え合おうとする。	自分の考えをまとめたり深めたりしながら、場所や目的に応じて論理的に話したり、相手の意見を聞き取ったりする。	相手や場所に応じて、適切な文体や語句を選び、論理の構成や展開を工夫して自分の考えを文章にする。	文章の内容を構造等や表現の特色に注意して的確に読む。また、文章に書かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わう。	表現と理解に役立てるための音声、表記、語句、語彙、漢字等を理解し身につけている。 伝統的な言語、文化及び文法や漢字について、理解し、知識を身につけている。
評価方法	行動（発言・発表）の観察 記述の点検（ノート、プリント等）	行動の観察（発表の評価、相手の意見をしっかり聞いた上で応答できるか等の評価）	記述の確認と分析（ノート、プリント、原稿用紙等）	記述の確認と分析（ノート、プリント、原稿用紙） 定期考査	確認テスト 定期考査 行動の観察 記述の確認
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。					

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点					単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d	e		
1学期	随想（一）	教材: 「世界は常に更新されている」	◎		◎	○	○	a:現在の科学の考え方の主流であるデカルトの思想と対比されているパスカルの思想とを比べながら、対比構造に気づくと共に筆者の主張を読み取れている。 c：自分の考えを整理し、相手に伝わりやすいように論理的に構成している。 d:引用された根拠から筆者の意見の妥当性を分析する。 e:本文中に出てくる語句の意味、漢字が定着している。	発言 ノート 小テスト 考査
	評論（一）	教材: 「ものとことば」	○			◎	○	a:物事の分類や認識が、各国の使用する言葉によって異なることについての事例に興味、関心を示している。 d:事象の認識が自分たちの使用する言葉に左右されることを知り、「認識」とは何かということを考えられている。 e:本文中に出てくる語句の意味、漢字が定着している。	発言 ノート 小テスト 考査

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点					単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d	e		
1学期	小説（一）	教材： 「羅生門」	○	◎		◎	○	a：登場人物の行動や心情、情景、時代背景を正確にとらえ、物語の主題をつかもうとしている。 b:下人や老婆の主張である「生きるためには他者を犠牲にしても許される」について自分なら同じ状況下であればどうするか、という意見が論理的に書けている。 d:登場人物の言動や心情、情景、時代背景をとらえながら、この作品の主題である「追いつめられた際の人間のエゴイズム」について理解している。 e:本文中の漢字や語句、文学史の知識が定着している。	発言 ノート 考査 小テスト
	古文入門・古文に親しむ	【古典】 教材:説話『宇治拾遺物語』 「児のそら寝」 古文を読むために1 古文を読むために2 『絵仏師良秀』 文法等 歴史的仮名遣い 品詞の種類・活用 動詞・形容詞・形容動詞	○			◎	○	a:本文の登場人物の行動や心情をとらえ、話の面白さを理解しようとしている。 ｄ：物語の登場人物の行動、心情を把握し、話の面白さを理解している。 e:古文を読むことに役立つ文法のきまりを身につけている。	発言 ノート ワーク 小テスト 考査

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点					単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d	e		
2学期	小説（三）	教材：『夢十夜』「夢一夜」 『鏡』	○			◎	○	a：登場人物の行動や心理を読み取り、各場面の状況を思い描こうとしている。 d：表現技法、情景描写などが物語の中でのどういった効果的な役割を担うのかと、小説ではっきとは描かれない登場人物の心理をそこから読み取ることができる。 e：本文中の漢字や語句、文学史の知識が定着している。	発言 ノート 小テスト 考査
	評論（二）	教材： 「「間」の感覚」	○	◎		○	○	a：一つのテーマに関して対比する際に「社会」「文化」「空間」などの対比構造へ関心を持とうとしている。 b：自分たちの生活の中での「間」がどれほど日常生活の中に溶け込んでいるのか他社と意見を交し合うことができる。 ｄ：西洋と和の対比構造を捉えつつ、筆者の主張である「日本の文化理解への手がかり」について理解している。 e：本文中の語句、漢字などの知識が定着している。	発言 ノート 小テスト 考査

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点					単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d	e		
2学期	評論（二）	教材： 「自分の身体」	○	◎		○	○	a:「身体論」という「自己」の理解への最小単位を手掛かりに「自分」とは何かという問いの答えを考えようとしている。 ｂ：「自分とは何か」について自分の答えを論理的に発表できている。また、他の人の答えにも耳を傾け、それについてどう思うかという意見が述べられている。 d:本文の筆者の主張について抽象的な文章の読解を意識しながら、筆者の主張を読み取れている。 e:本文中の漢字や語句などの知識が定着している。	発言 ノート プリント 小テスト 考査
	評論（一）	教材： 「水の東西」	○			◎	○	a:水における西洋と東洋の二つの視点から「文化」とは何なのかを考え作品での主題を読み解こうとしている。 d:本文の筆者の主張について東洋と西洋との対比構造構造や具体と抽象の呼応関係を意識しながら、筆者の主張を正確に読み取れている。 e:本文中の漢字や語句などの知識が定着している。	発言 ノート 小テスト 考査

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点					単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d	e		
2学期	漢文入門・故事成語	【古典】 教材： 訓読に親しむ１・２・３ 故事成語「漁夫の利」「虎の威を借る狐」、「先ず隗より始めよ」、「完璧」 句法等 訓点・再読文字	○			◎	○	a：中学校時代に学習した漢文について思い出しながら、漢文学習に意欲的に取り組んでいる。また、新しく学ぶ本文の内容とその本文に出てくる句法の習得に努めている。 d：漢文の書き下し文が訓点や句法に従って音読と口語訳が出来ている。 e：重要句法、故事成語などの知識が定着している。	発言 ノート 小テスト 考査
	随筆	【古典】 教材：『徒然草』 「ある人、弓射ることを習ふに」、「丹波に出雲といふ所あり」	○			◎	○	a：昔の随筆に親しみ、本文を正確にとらえて読もうとしている。 d：言葉の意味を正確にとらえて読み、作品のものの見方、考え方について自分の考えをもつことができる。 e：古典に表れたものの見方や考え方に触れ、登場人物や作者の思いを想像している。	発言 ノート 小テスト 考査

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点					単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d	e		
3学期	小説（二）	教材：「城の崎にて」	◎		◎	○	○	a:「城の崎にて」に込められた主題を考え生徒自身が悩んでいるかもしれない「死を見つめる」ということを考え、自己の生と死を見つめ直そうとしている。 c：筆者の主張である「生と死は偶然に支配される」について意見を書く。テーマに即して論理的にかけている。 d:作品内での情景描写や心象の変遷を正確に読み取ることができる。 e:本文中の重要語句や漢字の知識が定着している。	発言 ノート 小テスト 考査
	物語と日記	【古典】 教材：『伊勢物語』「芥川」 『土佐日記』「門出」 「亡児」	◎			◎	○	a:本文を音読しつつ、重要単語、文法を確認した上で口語訳を行い、その内容を読み取ろうとしている。また、和歌に書かれた心情も合わせて読み取ろうとしている。 d:本文及び和歌に書かれた登場人物の心情や状況を理解している。 e:本文中の重要単語、和歌の表現技法などの知識が定着している。	発言 ノート 小テスト 考査

※　表中の観点について

a:　関心・意欲・態度　　b:　話す・聞く能力　　c:　書く能力

d:　読む能力　　e:　知識・理解

※　評価の観点のうち「関心・意欲・態度」と「知識・理解」については、すべての単元に位置づけて○印を、また、その単元で主として扱う国語の領域(「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」)に関わる観点には◎を付している。